

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200267		
法人名	有限会社バリアフリーLife		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	佐賀県唐津市佐志1146番地11		
自己評価作成日	平成22年2月25日	評価結果市町村受理日	平成22年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 22年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中、理念である寄り添いを大切に、利用者様、ご家族様、それぞれの思いを介護計画に生かしたサービスが提供できるよう日々努めています。
安心と信頼していただける施設作り、地域・行政等との連携により更に地域に密着した事業所でありたいと考えています。
お客さまに満足して頂けるよう、様々に取り組みを考え、学習療法などを取り入れています。
年4回の家族会を実施し、家族間の交流、職員との情報交換の場として楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道340号線沿いから路地を少し入った丘陵地にあり、唐津湾を一望できるロケーションが魅力のグループホームである。近隣には病院や介護老人保健施設、知的障害者更生施設、グループホームなどがあり、福祉が根付いた環境である。
ホームの中には季節の花や手作りの掲示物が飾られ、季節感や安心感を感じさせてくれる。また、掃除が行き届いており、清潔感も漂っている。また、ウッドデッキや広い窓が多く設けられており、自然の光が差し込み、開放的な空間作りである。
理念の”寄り添い”を大事にされており、入居者の方々と職員の笑顔や笑い声が絶えない温かく家庭的な雰囲気の中で包まれている施設であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を最も重要と位置づけ取り組んでいます。 ・入社時の新人研修により目標や存在価値、やらなければならないことを理解する。 ・事業所会議内で「今月の寄り添い」として、全職員、事例を出しディスカッションしている。	運営理念として「寄り添い」を掲げ、心の寄り添い・人生の寄り添い・環境の寄り添いなどチームワークで寄り添う介護を心掛け、入居者個々に合った介護を実践されている。また、月1回の事業所会議で寄り添い介護について検証され、朝礼で日々の目標を掲げることで日々の寄り添い介護の実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段よりしっかりと笑顔で挨拶することを徹底しています。施設前を通られるときなどお茶にお誘いしたりしている。	近所とは助け合い、挨拶や何気ない会話など日頃の交流を重視されている。また、地区の清掃活動に地域の方と一緒に取り組まれたり、近所の方を事業所の行事に招待したりされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域老人会へ介護保険についての説明会など積極的に交流しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を全てご家族様に参加のお誘いをして、一人でも多くの意見を聞ける場をつくりサービスや施設への要望等を頂きサービスの向上につなげている。	運営推進会議は併設の小規模多機能型居宅介護施設と合同で2ヵ月ごとに一回開催されている。会議前には全家族に連絡し、一人でも多くの参加を呼びかけられ、積極的な情報交換をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談、報告を確実にこなっています。行政、お客様の意見を把握しバランスの取れたサービスを心がけています。	包括支援センターが窓口となり、連絡を取り合われている。担当者とは報告・相談により何でも話し合える関係が構築されている。また、介護相談員が毎月訪問されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束も施錠も行っていない自由以外へでいただける体制をとっている。徘徊等についても制限することなく職員が同行して外出して頂いている。	身体拘束も日中の玄関・居室の施錠もされていない。入居者が外出した場合は同行されている。また、身体拘束をしないケアについて、年間計画に基づき研修されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内、事業所内での研修で各職員がしっかりと学び、もしかしたら身近にあるかもしれないという意識で業務に取り組んでいます。会議等で話し合いの場を持ち意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や社内の勉強会をおこなっています。 参加できない者には研修報告などを行い確実に知識の共有化を図っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族が納得して頂けるまで、説明の時間を取り誤解や不安の残らないよう取り組んでいます。 お客様に疑問点等を問いかけることも必ず行うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会等を意見の交換の場としたり、苦情対応マニュアルの整備を行い、第三者機関の連絡担当部署なども明記し事あるごとに紹介している。	開設当初から家族会がスタートし、家族からの意見・提案を反映出来る良好な関係が構築されている。家族会は家族主導で運営されている。家族の面会が多く、職員との会話・交流の機会も多い。また、家族への年1回のアンケートも実施されている。入居者からの意見も聞けるよう意見箱も設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・事業所 所長、主任の会議から職員の意見を聞いている。 ・定期的に職員と面談し対話の時間を作っている ・自己評価(2面、3面)を行い、色々な視点から自己を見直しアドバイス、考えを相互的に話し合っている。	会議以外でも年2回の自己評価において自由意見を取り入れ、職員が自由に意見・提案出来るよう取り組まれている。併せて、職員との面談も実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的、面談の時間や臨時的な面談等にて職員の環境の変化を考慮できる限りの条件を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の新人研修から教育を開始し個々の力量を測りながら所長・主任の判断で研修・勉強会に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・見学や視察受入を積極的に行いながら情報交換や職員同士のコミュニケーション知識向上に役立てています。 ・他事業所の運営推進会議等に参加するなどし、意見交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前訪問で関係作りをしっかりと行っている。必要であれば何度も訪問を行うようにしている。 ・10年前の生活環境・趣味・趣向・仕事などを把握し本人様の生活スタイルを知ることコミュニケーションをとりやすくし、本人の不安やストレスを少なくするような環境づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・訪問・電話・文章などにより関係を深めるようにしている。 ・アンケートを実施し、代表者に直接返信できる対策をとり、意見・要望を受け込めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かい確認を取りながら必要に応じた援助を見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者様を人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れず、相談・指導・協力を本としてともに生活していくことを徹底している。 ・家族会などを通じてご家族様と一緒に利用者様の生活を援助していくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・介護の2面性を十分に理解しご家族様の負担や思い、ご利用者様の生活を思いの両面を意識し最良の支援方法を一緒に相談し決定していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・年2回、個別ドライブを計画しふるさとへお連れしたり、好んで行かれていた場所へお連れしている。 ・お正月・節句・お盆・大掃除など昔ながらのならわしを家庭的な雰囲気で行っている。	年2回の個別ドライブで自宅・生家・会社・寺社・墓などの入居者の馴染みの場所へふるさと訪問されている。その際は入居者個々の気持ちを汲み取り、家族の協力を得て実施されている。馴染みの場所で馴染みの方と触れ合うことによって、その方たちの来訪に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係に常に目を配り、時にはクッションに時には通訳などになり、一人一人が楽しく生活できるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列の施設への変更は数例あるも契約終了は無く、亡くなるまで利用して頂いている。 施設の移動があった方には、時々お顔を見に行ったりしている。亡くなられた方については墓参りや家族様の顔を見に行くなどの関係を築いている。施設のイベントにも必ずお誘いし、気軽に立ち寄っていただけるように思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の会話からさりげなく聞き取るようなスキルを日々意識させている。又アンケート等を行い皆さんが気軽に希望を言えるようにしている。 ・希望がある場合には、最善を尽くすようにしている。難しい場合には専門家や経験者などへ相談し事業所だけで合否しないようにしている。	日常の会話や声の調子・抑揚などから一人ひとりの思いや意向の把握に努められている。困難な場合は家族の意見を聞いた上で、週1回の事業所会議のカンファレンスにおいて多数の意見を聞くことによって、本人の意向を推測されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に徹底して行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・各職員が日々の観察を十分行っている。 ・事業所会議には利用者様についての話し合いを行い多くの視点にて総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・会議等にてよく話し合いプランニングしている。 ・家族様・ご本人にしっかりと説明し意見・要望を聞き取り再度見直ししている。	介護計画は長期(6~12ヶ月)及び3ヶ月毎に評価し、事業所会議で全員の意見を聞いた上で継続または変更し、サービス担当者会議を経て作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ひと目で援助内容が分かるように日々生活援助を具体的に書き出して、チェックするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物に行きたい。外出・散歩に行きたい等の要望に応じて柔軟な援助を行っている。家族の要望には施設内で話し合い柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、協力機関に協力を求め応じていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人のかかりつけ医を設けて定期的に往診・受診している。 ・かかりつけ医とは24時間体制で契約している。	入居者全員、協力医療機関がかかりつけ医となっているが、通院の際は家族に報告し、どこに受診するか相談されている。また、通院支援は24時間ホームの職員で行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤に看護師を配置し、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が医療機関と相談しながら連携を取り、早期退院につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・看護師・介護職・ご家族様と情報交換し共に変化に備え検討して準備している。	ターミナルケアについては、間近に迫った時点で対応を家族と話し合い、家族の意向に沿った方針を共有されている。その際は記録も取られている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から将来的なこととして家族と話し合い、ホームの考えを説明し、今後の方針を共有することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの整備により全職員が対応できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署・地元消防等を日頃から訓練等でお世話になり連携をとっている。 ・マニュアルの整備にて混乱が無いように訓練している。	地域の消防団と連携し、昼間想定防災訓練を年2回実施されている。夜間については緊急連絡網で対応するよう打ち合わせされている。地域との協力体制は日ごろの付き合いから構築されている。	今後、夜間における通報・避難誘導・地域との連携といった、夜間を想定した防災訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが人生の先輩として尊敬し又お客様として人格を尊重し関わっている。 一人ひとりのプライドを損ねないよう、そのひとの世界を大切に受け入れるようにしている。 記録の保管に配慮している。 	言葉掛けや話し方など日々気をつけて話し掛けられている。入居者一人ひとりのプライドを傷つけないよう、否定せずに受容することによって対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> その人に合わせたゆったりとした生活をして頂くようにしている。 常に問いかけ希望や自己決定を促す言葉・声かけを行うようにしている。表現できない方についてはさらに表情等を十分に読み取るよう努めている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 職員側のやり易さに合わせるのではなく入所者側に合わせている。忙しいときも必ず顔を見て、対応する。すぐに出来ない時は、目安の時間をつけ必ず再度伺うようにしている。 対応時は、ゆったりとした雰囲気で行うことを大切にしている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 個人の希望に合わせた、化粧・髪型・服装をしていただき、自分で出来ないところは介助している。 理美容は、訪問美容を受け入れているがご希望であれば希望される美容室へお連れする。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士に相談しながら献立を作ってもらっている。 食事の準備・片付け等も利用者様と職員が一緒になって楽しみながら行っている。 リクエストメニューなども取り入れている。 	リクエストメニューやおやつ作りによって、食べる楽しみ・作る楽しみを工夫されている。準備や片付けについては入居者も手伝われている。また、調理員を配置し、食事の形態や衛生面に配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 水分量・食事摂取量を記録し情報を共有し個々のケアにつなげている。 個々のその時々状態に合わせ形態や時間等、検討しながら支援している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 毎食後、うがい・歯磨きを行っている。 義歯の定期的消毒・舌ブラシ・歯ブラシについても個々に合わせ使いわけるようにしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表を活用し失敗を防ぎ、出来るだけトイレで排泄していただくよう取り組んでいる。	トイレでの排泄を目指し、チェック表によって個々の排泄パターンを掴み、声掛け誘導されている。疾病によっては尿量なども観察されている。夜間はリハビリパンツを使用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・野菜の摂取を多くする為、温野菜にするなど工夫している。 ・一日一回乳製品(ヨーグルト・牛乳)の摂取 ・勉強会等にて排泄メカニズムや対策などの知識向上させている。 ・適度の運動など日常生活の中で視線排泄につながる工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・ご希望があれば、いつでも入浴できるようにしている。 ・現実としては、中々入浴に積極的な方が少なくこちらから声かけし入浴される	入浴日や時間帯は設けず、希望があればその都度実施されている。職員と楽しく会話をしながら入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの状態に合わせ、休憩していただいている。 ・就寝もご自由な時間に出来るようにしている ・室温湿度の管理		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服使用者の薬の効能を知り医師の指示どおりに内服できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の楽しみ役割が持てるよう入所者様の意思を尊重し、職員が情報を提供して張り合いのある生活につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ふる里訪問、個別ドライブ、全体ドライブなど、計画的に行っている。その日の天候や体調等に合わせ、外出を心掛けている。	行事での外出以外にも、一人ひとりの希望に沿って日常的な散歩や外食、サンデッキの利用などの支援をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった場合、可能な限り速やかに対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙など希望時は自由に利用できるようすぐに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家庭的で、家電・家具など暖色系を取り入れる等ほっとする雰囲気作りに配慮している。 ・施設内には常に季節の花を飾っている。	窓が広く、景色を一望出来るリビングや畳スペースを設けるなど、共有空間を工夫されている。また、裸足で移動できるよう廊下は常に清潔にされている。季節の花を飾り、季節感にも気を配られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・家具の配置を工夫し、数人で楽しめる空間を作ったり、個人でゆったりとした時間を過ごせる場所を作るなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、人形など、生活用品を自由に持ち込んでいただき、その人らしい部屋作りをしている。	居室には好みの物や必要な物など、自分の物を自由に持ち込むことができ、安心して過ごせる部屋作りへの配慮がなされている。模様替えの際も家族が手伝いをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリー設計にて自立援助を支援し、家族様からの情報や入居者様の希望をしっかりと受入工夫につなげている。		